

科学研究費助成事業（特別推進研究）中間評価

課題番号	20H05628	研究期間	令和2(2020)年度 ～令和6(2024)年度
研究課題名	細胞外足場タンパク質によるシナプス・非シナプス機能制御機構の解明	研究代表者 (所属・職) (令和4年3月現在)	柚崎 通介 (慶應義塾大学・医学部(信濃町)・教授)

【令和4(2022)年度 中間評価結果】

評価		評価基準
	A+	想定を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A-	概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
<p>(研究の概要)</p> <p>研究代表者が発見し概念として確立した細胞外足場タンパク質について、シナプス及び非シナプスにおけるそのシグナル伝達機構を解明し、さらに、人工コネクターを開発して神経回路の制御を目指そうとする意欲的な研究提案である。</p>		
<p>(意見等)</p> <p>細胞外足場タンパク質が、神経細胞間のシナプス伝達や拡散性伝達の成り立ちにどのような役割を持つのかについて、細胞外足場タンパク質の1つである C1q の結合部位を明らかにする等、非常に新規性が高く、重要な発見が積み上げられている。これらの研究成果は、脳の発達・働きに関わる分子メカニズムの理解や神経疾患の病態の理解に大きな波及効果を持つと予想される。人工的なシナプス誘導技術の応用・改良については、新規シナプスコネクターを開発し、その性能検証を行う等、先駆的な試みがなされているが、動物実験承認審査の長期化や新型コロナウイルス感染症など予期せぬ状況により遅れが生じているため、計画変更やバックアップ策について検討する必要がある。全体として、現時点まで研究は順調に進展しており、期待どおりの研究成果が見込まれる。</p>		